



本書の刊行に際して、著者の元兼正浩さんにお話を伺いました。本書に込めた思いや、インタビュー中へのぞかせた元兼さんの素顔をご覧ください。（『悠+』2010年5月号「著者訪問」より）

学び続けるスクールリーダーが学校現場を変える！

学校を取り巻く課題をどう捉え、どう立ち向かうのか―。本書は、タイムマネジメントや危機管理をはじめ、スクールリーダーに求められる資質・力量やスキルをわかりやすくまとめた一冊。時間がなく、スキルアップのための研修時間を確保できない次代を担うスクールリーダーのために、著者の元兼正浩さんが研修で求められてきたテーマを中心に、実際に研修を行っているような語り口で執筆している。

「この一冊分を、実際に研修しようとする、30時間やっても終わらないでしょう（笑）」

元兼さんは、講義や研究のあいまを縫って現在年間に20～30回程、福岡県内外の管理職に向けた研修を行っている。

記憶と記録に残る研修を心がけています」という言葉の通り、元兼さんは、例えば保護者対応の研修ならば、まず保護者役と校長役を振り分けたロールプレイングを行い、それを記録したビデオを元にディスカッションするなど、学び合いの場となる研修を行っている。「元気が出る」「また受講したい」と、地元の管理職からは評判の研修だ。今回の単行本化には、より多くの先生方に研修内容を届けたいという思いがあったという。

元兼さんの研究の中心テーマは、校長人事。長年の教育行政の研究より、行政と現場の接続点である「校長」の力が学校全体に大きく影響すると感じ、現在は活気のある管理職養成に力を入れている。そんな元兼さんに、現在の日本の教育の一番の課題を聞いた。

「『学ぶことへのリスペクトの低さ』ですね。日本には『我利（ガリ）勉』や『受験戦争』という学びに否定的な言葉がたくさんありますよね。本来、学びは社会に還元されるものですが、今はエゴイスティックな面が強調されていると思います。学校現場でも『本を読んでいる暇があるなら指導案の一つでも書きなさい』って言うでしょう。学びを尊重する雰囲気の高さが、学力低下をはじめとする教育界のすべての問題に通じているのではないのでしょうか」

それに派生する課題の一つに“形式的な行政研修”もあるといい、元兼さんは管理職が元気になる研修づくりに東奔西走しているのだ。

本書では「学びを支えるしかけ」として、各章の内容に対応したワークシートがインターネット上でダウンロードできるようになっている。いつでも学びたい時に、無料で教材を手に入れることができる仕組みだ。

また、簡単にリスクマップが作れるフォーマットや、他の管理職の平均と比較できるタイムマネジメントツールなど、インターネットならではのお役立ちコンテンツも、ホームページ上で続々更新予定だという。

時間の使い方の話になると、「私は仕事が趣味で、3人の息子と妻には本当に迷惑をかけてしまっています」と、父親の顔を覗かせた元兼さん。インタビューは東京で行われたのだが、「東京は日帰り、というのが私のルールなんです（笑）」と、颯爽と次の仕事へと向かっていった。（取材／本誌・西尾 眸）

【プロフィール】

元兼正浩さん

もとかね・まさひろ



昭和40年北九州市生まれ。平成9年九州大学大学院教育学研究科博士号取得。九州大学教育学部助手、福岡教育大学専任講師・同助教授を経て15年より九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門助教授、現在は大学院准教授。校長人事を中心テーマとし、学校マネジメント支援から自治体教育政策にまで幅広くかかわっている。主な共著に『二十一世紀の学校改善—ストラテジーの再構築』（第一法規）、『こうすれば学力は伸びる』（ぎょうせい）など。